

# 中央会 B 級事件簿 「Where do you go?」

それは6月26日のこと。私たち新田役員は、倉吉での役員会を終え、山陰本線にて米子への岐路にいたりました。

米子駅2番ホームに降り立った私たちの目の前、そう運命の3番ホームに鬼太郎電車が停まっていた。それを見た旧県出向ウォーター氏。「あっ、境線だ！」この一言で、境港方面のロック氏、ビーチ氏、ミليون氏は電車に飛び乗り、「ワシやちゃ、朝日町に出ずに帰えーだぞ。」とでも言いたそうに手を振っているのです。ホームに残された中央会の重鎮ディープ氏とサッカー馬鹿サマーは、「あーやちゃ、いったいどこ行くつもりだぞ？境線は0番ホームだぞ。」「どせ安来まで降りて、タクシーで朝日町に出てくう。先回りしよいやっ！」と言いつつ朝日町の某スナックに行き、ミليون氏の携帯に電話をしたのでした。「今、どこおーだ？」「うるさいな！」「どこまで行っただ？」「うるさいな！！」と怒っていて会話になりません。そこでビーチ氏に電話。「今、どこおーだ？」「朝日町を歩いとーがな！」「どこまで行って？タクシー、何ぼかかった？」「ウォーターが境線って言うけん安来まで行ってしゃったがな。3800なんぼ掛かったがな！！」とやっばり怒っています。

わたしたちは冷やかかし半分、フォロー半分でビーチ氏、ミليون氏と合流しました。「ミリちゃん、安来にええ店でもあってや？そーともしり帰りでもす一つもりだつてや？」「うっせー！」「こげなおもしろ一話、絶対ハンサムに載せてーわ。」「勝手にせやい。もー、ほっといてごせ！」とのことでしたので、約束どおり掲載させてもらうことにしました。

(きずな：サマー)

※身につまされるお話です。この号が発行される頃には忘年会シーズンも最高潮。酔った勢いで本人の意思に反しているんな場所に出没する会員も増えることでしょう。われわれ広報委員会が一番心配するのはビールを持たせたら日本一の某女史なのです。お酒は清く正しく・清く正しく飲みましよう！



## 言わしてごしない Part 5

「だめゼミ生、原点に帰る」

先生、ご無沙汰しております。お変わりありませんでしょうか。米子に帰って早や7年になりました。前にもお話ししましたが業界を取り巻く環境もより一層厳しくなり、利益率の改善が急務となっております。売上額の増進が困難な今、固定費を含めた経費の削減と高収益化が求められています。我々流通業の宿命として調達価格を抑えるのが高収益化の大きな命題であります。販売価格を抑えられている現在、この差額を埋めるのは容易ではありません。流通業における新しい商品の開発にはおのずと限界がありますが、既存商品の高付加価値化、形態の変化を見出すのが現在の私の命題となっております。

先日ふと先生から教わったマルクスの「命がけの飛躍」という言葉を思い出して、学生時代のノートを取り出して見ました。「商品とはなんぞや？役に立つものである」「貨幣とはなんぞや？物々交換の仲立ちをするものである」「資本（G-W-G'）は動いていないと増えていかない」「どうやって動かすか？人に貸す、自分で買って売る、人が買ったものを売る」そして出てきたのが「命がけの飛躍」です。

「もし商品が話すことが出来たらこう言うであろう、『われらの使用価値が人間の関心事なのである。使用価値はわれらに属するものではない。が、われらに物として与えられているものは、われらの価値である。商品物としてのわれら自身の交易が、この事を証明している。われらはお互いに交換価値としてのみ、関係しているのである。』と。』どんなにいい物を作っても世間に受け入れられなければゴミ同然です。新たな商品（サービス）を創造する時、その商品が市場に流通する価値があるかどうか、すなわち世間にニーズがあるかどうかポイントだということですね。そうすると、「いくらで売りたい。そのためにはいくらで作らなくてはならない。」といった、独り善がりな発想ではなく「こういうものを作ったら受け入れられる。」という社会的なニーズを的確に掴む事が重要になるわけです。そのニーズが細分化され面から点へ移りつつある今、焦点を絞った商品開発と特定の範囲での事業展開をいかに結びつけるかがポイントといえそうです。何はともあれ、マル経などいっちょ歴史として捉えていただくためゼミ生にとって「命がけの飛躍」は、ちょっと気になる言葉でした。

長くなってしまいました。時節柄風邪などめされぬようご自愛ください。

霊峰大山の初冠雪の日に (副会長：前田 真)

### 12月役員会報告

11月定例役員会が平成13年12月3日(月)、ホールサムインかいけに於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 12、1月例会開催の件
- (2) 新加入会員加入の件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

### 12月忘年例会案内

と き 平成13年12月18日(火) 19:00~

と ころ ホテルサンルート米子

担 当 Newカマーズ委員会

コピーをして名簿にお貼り下さい

**岩西 隆** O型代表

ベストワン通信機器販売

〒689-0823 松江市西川津町1071 松本ビル1F

TEL 0852-25-9068 FAX 0852-25-3530 (KT)

〈自宅〉米子市陽町19-9

〒683-0032 S 39.4.11 TEL 33-8396

(コメント) 青年中央会に入会させていただき有難うございます。現在、店舗は松江にあり当での活動は限られておりました。しかし、出身は米子であり、今後諸々の行事に、何らかの形で参加したいと考えておりました。これから、皆様方との交流の上で様々な事を学び、自分自身が少しでも向上出来ればと考えております。よろしくご指導をお願いします。

**小椋 崇永** B型 営業部長

（前）いろは精肉本店 販売・飲食業

〒684-0023 境港市末広町118

TEL 0859-44-3232 FAX 0859-44-3359 (KT)

〈自宅〉米子市上原福原759-8

〒683-0004 S 46.9.10 TEL 35-3415

(コメント) この度入会させて頂きました小倉崇永です。当社は境港市で肉の小売・卸売・飲食業をやらせて頂いております。今、私どもの業界では狂牛病等の影響で大変な時期であります。これを次のステップとする壁ととらえて、今後はより大きく発展し前進できるように幅広い分野に目を向け勉強したいと入会を希望致しました。分らないことばかりでご迷惑をかけますが、諸先輩の皆様、是非ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

### メールアドレス変更のお知らせ

**岡本康朋** 副会長  
y-okamoto@nakaishu.com

**伊藤玉一** 政治行政委員長  
平設計 (会社用) ito@tairasekkei.com  
(個人用) tamaiti@sanmedia.or.jp

### 天声 誹 語

世界有数の経済大国といわれ、年間休日も増え、生活が豊かになっているはずなのに日本国が少しおかしい。街はたばこの吸い殻をはじめ、多くのゴミが落ちていて。景気は言うに及ばずこの状態。国の為に戦地で戦うと答える比率が日本人は著しく低い。まあ、戦争は極端としても、国歌を歌うかどうかが問題になるような風潮である。くれぐれも、豊かさや平和を履き違えないで頂きたいと思う。今、未曾有の不景気で、リストラや、社会不安がババを利かせている。色々な意味で足元を固めるとか基本に戻れと言われるが、我々日本人も日本人の原点である勤労と道徳心がずさんではないか。常緑樹は冬にならなければ分らない。夏の間は全ての樹木が青々としているが、いざ厳寒を迎えた時、凛とした美しさを保てる常緑樹は冬にならなければ分らないのである。

今、この厳しい時代だからこそ、あらゆる逆境に堂々と立ち向かう、凛とした姿勢を貫きたいと思っている。

# Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷社

## 11月例会報告



平成13年11月16日(金)、米子コンベンションホールにおいてモラル委員会(潮邦昭委員長)担当の11月例会が開催された。

元氣よく綱領唱和をし、岩田会長の挨拶の後、伊藤玉一委員長(政治行政委員会)の担当する委員長タイムが行われ、広域合併を考える上で他青年経済団体との連携の必要性が発表された。

今月は西伯町長の坂本昭文氏を講師としてお迎えし、『西伯町の挑戦～福祉事業におけるモラル～』の演題で講演が行われた。同氏は元西伯町職員であり、当時から町長である今実践されておられる。氏は町を人間に例え、町の身長や体重、健康状態などを知り、地方自治体を取り巻く環境の急激な変化に対応する動きが必要であると強調された。同氏が次々と考える奇抜なアイデアは全国的にマスコミでも注目されている。中でも「あいのわ銀行」(ボランティア活動の組織化)及び「介護保険の100人委員会」並びに環境ワークショップ等の手法を取り入れたものは代表的なものである。町民自身が自らの町の将来を考えていく自覚の高まり、そして一層の町政への参画、自助・共助・公助の純化により新しい町づくりを住民と行政が一体となって楽しく創り上げていくという熱意溢れる講演が行われた。続いて同氏は持続的発展可能な町づくりについて産業の振興、農業・農村の役割、よりよい地域遺産の創造と承継について、指示待ちから住民サイドに立ったモラルある行政の展開を図りたいと強く訴えられた。そのような西伯町の考え方が、『住民ひとりひとりの町づくりに対する発展的なマインドとして醸成されることを目指す。』で講演が結ばれた。

地方の時代と言われて久しいが、官・行政が中心となるのではなく住民が中心となった町づくりが、モラルある至極当然な町づくりなのだ改めて認識させられる例会であった。

(広報：中本高夫)

## 温故知新 第23期ご卒会の柴谷誠司OBにお話を伺いました。

(中央会を振り返ってみて…)

—入会時の印象はどうでしたか?—

もともと県外でサラリーマンをしておりました。帰郷した折に中央会に誘っていただき、入会したのが昭和58年の足立統一郎会長の時でした。以後15年間在籍したわけですが、入会当時は、組織の力強さの特長ともいえるような「右へならえ」の雰囲気や先輩たちの強い指導力に結構強い衝撃がありました。また、その時期は松田一三氏を県会に送り出そうと中央会が一丸となっていた時であり、新入会員の私も雰囲気飲み込まれるように盛り上がったことを覚えております。それと、先輩の方々が体を張って仕事に取り組む姿勢を目の当たりにして、根の生えた仕事というのはまさにこれなんだと考えさせられました。

—活動を振り返ってみてどうですか?—

私自身、活動そのものは楽しくできたとおもっております。副委員長の時は事務的な役回りが多くてちょっと忙しかったかなという感じはありますが、委員長を3回、副会長を1回経験する頃には人間関係も深まって中央会とは別の楽しみも増えていきました。また、先輩の方々とも年齢のギャップを感じない会話もでき始め、自然と中央会活動が楽しくなったような気がします。中央会は素の自分をさらけ出すことのできる会だと考えておりましたので楽しめたのではないのでしょうか。

—現役メンバーに一言お願いします。—

若い会員の方々は先輩にすぐく遠慮深いような感じがします。謙虚な気持ちは大事ですが、必要以上に遠慮せず、もっと積極的に自分のほうから先輩と会話をして欲しいとおもいます。そうすれば先輩たちは快く応えてくれますので。そうしたちょっとした事が知らず知らずのうちに年代をつなぐ関係となっていくのだとおもいます。また、在籍中にできるだけ多くの友達を作って、大いに中央会活動を楽しんでもらいたいとおもいます。

後記

15年間もの長きにわたって在籍された柴谷OBのお話を伺い、「中央会活動は、人と同じ時間軸を過ごしても自らの心掛けひとつで多くのこと吸収できるのだ」と、改めて自分自身の中央会活動を振り返らされたインタビューでした。柴谷OB、お忙しい中たいへんありがとうございました。

(広報：足立徹)





# 鳥取県中小企業青年中央会 経営研修会



11月22日(木)、ホテルニューオータニ鳥取にて、鳥取県中小企業青年中央会経営研修会が開催された。

まず古南県会長から今回の基調講演の講師である とんQ株式会社代表取締役 矢田部武久先生の紹介があり、続いて「人を育てる」という演題で講演が行なわれた。

矢田部先生が、自身の経営のポイントとしてあげられたのは、

1) 社長の仕事の第一は「人を育てる」こと

21世紀はモノそのものよりも、「心の満足や楽しさ」が求められている時代であり、勝ち残る会社になるためには「人を育てる」ことが一番重要である。

2) まずは社長の経営理念

会社の大きさは社長が持っている夢の大きさによって決まる。これが経営理念と政策の基本となり、更に商品(コンセプト)、組織がバランスよく機能することによって理想的な会社となる。(ちなみにとんQの経営理念は「感動の共有」)

3) 働く仲間をその気にさせる仕組み(システム)づくり

社員をやる気にさせるために目標を持たせ、モチベーションを高める。目標を達成した社員に報いる仕組みを作り上げる。(矢田部先生はこれを「歡働(かんどう)システム」と命名)

その他、社長塾を開催し、社長自ら従業員に対し常に人生観や経営理念などを語る場を設けたり、意欲的な社員に対してはチャンスをもっと与える(「華麗なるエコヒイキ」)など人を育てる施策を次々と実行している熱血漢であった。その源泉は、海外放浪やシルクロード単身走破など、自ら行動することによって自分のこれまでの価値観をぶち壊し、いろいろな人に触れられながら自らの価値観を創造していく「生涯青春の発展途上人」であるところにあると感じた。青年中央会の面々にも、先生の熱い思いは充分伝わっているようであった。

その後、懇親会に移り、東部・中部の会員の方々と一緒に楽しいひと時を過ごした。(広報:植田寿雄)

## 中小企業青年中央会経営研修会



## 第53回中小企業団体中央会全国大会道中記

私は毎朝7時に起床する。10年くらいそれが癖になっている。しかし、10月24日の朝は違った。昨日の酒が少し残っているにもかかわらず、6時過ぎには目はパッチリと冴えていた。出掛けに、磨き上げた靴の中でカメムシを踏みつぶしてしまうというハプニングがあったが、待ち合わせ時間の8時40分には米子空港に到着することができた。空港で岩田会長・釜田県出向・若槻委員長らと合流し、事務局の足立さんの見送りを受けて米子を後にした。

羽田へはほんの2時間足らずで到着した。ターミナルでバスガイドの綺麗なおねえさんの熱烈(!) 歓迎を受ける親会の方々を尻目にそそくさとモノレール乗り場へ直行した。東京駅で岩田会長にランチとビールをご相伴に与ったあと、長野新幹線で東部・中部の方々とは合流し、一路長野へ。長野駅に着くと、バスガイドのおぼちゃんの熱烈(?) 歓迎を受ける。私達はバスに乗り込み、上山田温泉へと向かった。車窓から見える町の感じや、長野の歴史・産業、名物の「おやき」と「おいた(?)」についてガイドさんを質問攻めにする西部会員であった。

翌25日、長野オリンピックで一躍有名になった長野ビッグハットにて「連携・創造・挑戦 新世紀に翔け中小企業」のスローガンのもと、第53回中小企業団体中央会全国大会が開催された。今や良くも悪くも長野の顔ともいえる田中康夫知事の「政治とは、生活者個々が何を求めているのか、何を欲しているのかということを決えず考え、県民視点で行わなければならない。」というなんとなくクリスタルな話に感銘を受けた。その数時間後、不夜城東京の闇夜に乗じて暗躍するカラスたちは真剣に都会の深部を視察し、同時に勝負の厳しさを知り、米子への岐路に着いたのだった。

参加された東・中・西部の皆様、お疲れ様でした。また、旅行の段取りをしていただいたサンワールド様、ありがとうございました。

(きずな:福田一哉)

## 第1回鳥取県中小企業青年中央会韓国(江原道)企業交流

今年5月に筆者をはじめとする県青年中央会メンバーが、韓国江原道の各産業との経済及び人的交流を3年間行うために調査団を送った。そして9月に一部江原道企業よりサンプル8商品を輸入し、販売を行った。

この流れで11月12日~14日の3日間、古南県会長を団長とした第1回目の江原道企業と鳥取県青年中央会との経済交流会が行われた。初めに江原道庁内において朴副知事を表敬訪問し、挨拶並びに記念品交換を行った。続いて交流会及び懇親会に移り、江原道内企業(14社)が商品PR等を行い、一部青年中央会メンバーがサンプリングを行うことが決定した。鳥取県と江原道は平成4年から県レベルで交流を行い、平成6年に友好提携を締結した。親会でもある鳥取県団体中央会も平成10年度より両県の異業種交流を促進し、その後を引き続き我々鳥取県青年中央会が経済交流を行うこととなった。

また、鳥取県の市町村と江原道の市町村レベルでの文化・芸術等での交流もさかに行われ、11月8日には鳥取県と江原道との友好提携も7年目を迎え、片山知事等を招いて江原道にて記念式典が行われた。県及び親会の県青年中央会に対する期待も大きく、さまざまな分野で交流事業が発展することが我々青年企業人に与えられたビジネスチャンスであると思う。

(団体構成 西部7名 中部3名 東部8名 県商工労働部1名 団体中央会1名 計20名)

(直前県会長:奥森隆夫)



## 11月度委員会報告

きずな委員会 平成13年11月9日(金) 於:ホールサムインかいけ 出席者/11名  
内容/1月担当例会打ち合わせ

情報メディア委員会 平成13年11月8日(木) 於:ホールサムインかいけ 出席者/13名  
内容/講師講演

講師:やまつきスポーツクラブ幹事 入江道憲氏

演題:「やまつきスポーツクラブの情報戦略」

内容: やまつきスポーツクラブは、より良いスポーツ環境を創出することを目的として設立され、スポーツマネージメントという位置付けの中、様々な利用者体系を持っている。それ故に各種ニーズに適合した情報メディアを用いることが、誤解の生じない情報伝達には不可欠であると同時に、本来のクラブの目標達成の為に重要な戦略であると考える。

モラル委員会 平成13年11月6日(火) 於:米子食品会館 出席者/10名  
内容/①11月例会の打ち合わせ

②講師講演

講師:鳥取西部広域行政管理局環境資源課主幹 安野武男氏  
内容:資源ゴミのリサイクル現状、ゴミ分別の必要性及びリサイクルプラザの運営内容

経営委員会 平成13年11月7日(水) 於:米子食品会館 出席者/16名  
内容/ 今月は第22期会長・23期ご卒会の松本啓OB(株)松本油

店・(株)ケイズ代表取締役)をお迎えし、ご自身の希望により、講話というより対話形式での委員会となった。

社員教育にも力を入れておられ、CS教育も月1回勉強会を開き、なかには中小企業診断士の資格を取得させ、それを新規事業あるいは現在の事業の付加価値として活用されている。

Newカマーズ委員会 平成13年11月14日(水) 於:大連 出席者/22名  
内容/①委員会研修の報告

②12月担当例会について打合せ

政治行政委員会 平成13年11月7日(水) 於:ホールサムインかいけ 出席者/13名  
内容/講師講演

講師:(社)米子青年会議所コミュニティ21委員会 委員長 都田尚史氏

内容:「潤いのまち」をテーマに米子JCとしての活動内容を伺った。

広報委員会 平成13年11月5日(月) 於:米子食品会館 出席者/14名  
内容/①ハンサム12月号担当割

②知的所有権小冊子発行に向けての打合せ

③12月忘年委員会開催の件

総務委員会 平成13年11月7日(水) 於:YANSHU 出席者/15名  
内容/OB交流会の反省

## 知らないと損する「IP」わぁ〜ると④

今回は10月例会終了後、皆様から頂いた様々な質問に対する奥村隆一アドバイザーの回答を掲載したいと思います。

Q1: 知的所有権と工業所有権の違いがわかりません。

(回答)

・知的所有権は知的財産権とも呼ばれ、工業所有権(特許、実用新案、意匠、商標)、著作権、半導体集積回路配置、商号、植物新品種利用権、不正防止法による商品等表示の使用権及び営業秘密保持権、等の総称です。

Q2: どういう時に、なにげなく使用したものが知的所有権に触れるのか実例が聞きたい。

(回答)

・現在では特許電子図書館で簡単に検索できますから、事業を行うときに調査すれば侵害することはないと考えます。  
・なお、アジアというレベルでは輸入品で多くのトラブルが発生しています。この内容は特許庁ホームページにある制度紹介の「権利を巡るトラブル」の事例を見てください。

Q3: 特許や商標において、公開前や審査中に同様の物件を無意識に考案・使用した場合にはどのようなことになるのでしょうか?

(回答)

・まず、公開前ですが、この時点で他人の特許内容を知ることでは

きないのですから、使用していても侵害にはなりません。  
・公開後に警告書が来た場合には、権利確定時に警告書が届いた時点からの対価を請求される場合があります。

Q4: 鳥取県の中小企業で、実際に工業所有権で大きな収益を上げている企業があるのか?

(回答)

・特許による収益がどの程度かは分かりませんが、有益な特許を取得している中小企業をあげてみますと  
①建築用断熱材・セメント骨材等のリサイクル商品製造の会社  
②氷温技術による食品製造の会社  
③各種セラミックセンサーの開発・製造・販売の会社 etc...

Q5: 知的所有権に対する中小企業の意識はいかがなものか?

(回答)

・千差万別です。  
・Q4で掲げた企業は知的所有権に対して大変関心が高いと思われる。

以上まだまだたくさんのご質問を頂いております。これからも「知らないと損する「IP」わぁ〜ると」で随時紹介して行きますので、どうぞお楽しみに。

(広報:渡辺一徳)

## 第8回中海TV放送杯野球大会

去る10月28日(日)、爽やかな秋晴れのもと会見町野球場にて第8回中海TV放送杯野球大会「TSC対ニューシンディーズ」の試合が行なわれた。

TSC先攻で始まった試合は、2回まで両チームとも無得点で進行した。3回表、先頭打者の岡本選手が四球を選んで出塁。続く松下選手のセカンドゴロを、相手が併殺をあせり走者オールセーフ。後藤(公)選手のセンターオーバーのツーベースで岡本選手が帰って先制した。4回表には、先頭打者の石指選手が四球を選んで出塁し、相手投手のワイルドピッチの間に2塁へ進塁。続く後藤(太)選手の横打でランナーは3塁に。岡本選手がカウント2-2からスクイズを成功させて追加点を奪った。守備では、先発の金居投手が5回と7回以外ランナーを毎回背負ったものの、ショート後藤(公)選手のファインプレーにも助けられ、7奪三振の好投で完封した。

試合に勝ったこともさることながら、何よりもベンチから声がよく出ており、控えの選手も一丸となったTSCらしい素晴らしい試合であった。我々が球場を後にした頃、ひどい土砂降りに見舞われたことは、我々の常日頃からの積徳を物語っているのだろうか?

※ちなみに11月18日(日)に行われた準々決勝の結果は...

(広報:尼子 健)

